

令和8年度 全国学力・学習状況調査の結果について（確定版）

R8.9.30 秋田県教育委員会

概 観

- 平成19年度の調査開始以来、連続して概ね良好な状況にある。
 - ・小学校において、各教科の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っている。
 - ・中学校において、国語、数学の平均正答率は、全国の正答率を上回っているが、英語の平均IRTスコアは、全国の平均IRTスコアを下回っている。
 - ・児童生徒質問調査及び学校質問調査の多くの質問項目において、肯定的な回答の割合が全国平均を上回っている。
- 各教科の概ね良好な状況に加え、児童生徒質問調査及び学校質問調査の結果には、児童生徒が望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けている状況が表れている。
- このような状況は、“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”に示している本県の優れた教育環境によるものであり、学校、家庭、地域、大学等が手を携え、オール秋田で成し遂げられたものであると捉えている。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”にみる秋田の優れた教育環境

 - ・児童生徒の望ましい生活習慣・学習習慣
 - ・各学校における児童生徒一人一人へのきめ細かな指導と授業改善への取組
 - ・学校と家庭、地域との連携・協働による質の高い教育力
- 県教育委員会では、今年度を含めた計18回の調査結果により、これまでの施策・事業について一定の評価ができると捉えている。特に、少人数学習推進事業、県学習状況調査、各学校が共同研究体制のもと実施している授業改善の取組等は、成果を上げているものと考えている。
- 今後も、教育関係者はもとより、県民の皆様の御理解と御協力をいただきながら、オール秋田で「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指し、「教育立県あきた」の実現に努めていく。

調査結果の活用

- 各学校においては、提供された自校の結果を基に、成果と課題を明らかにし、指導の改善を図るとともに、児童生徒一人一人の課題の解決に向けた取組を組織的に進めることになる。
- 県教育委員会では、検証改善委員会を立ち上げ、これまでの課題の改善状況や今年度の結果から明らかになった課題等について詳細な分析を進め、調査結果の概要を提供するなどして各学校を支援していく。
- 今後も、国と県の学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた本県独自の検証改善サイクルを更に機能させていく。具体的には、本調査で見られた課題の解決に向けて、課題改善サポート問題を作成し、各学校に提供するとともに、県学習状況調査等で課題の改善状況を把握する。また、高校入試においても、思考力・判断力・表現力等を用いて解決する問題を出題するなどし、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に努めていく。

教科に関する調査の結果

◆概 要

- 小学校において、各教科の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っている。
- 中学校において、国語及び数学の平均正答率は、全国の平均正答率を上回っている。
- 小・中学校ともに、多くの問題（小：69.0%、中：68.1%）において、本県の平均正答率は全国平均を上回っている。
- 小学校では全ての問題（100%）、中学校では多くの問題（88.9%）において、無解答率が全国平均を下回っている。
- 中学校において、英語の平均IRTスコアは、全国の下回っている。
- 正答率が十分ではない問題については、指導の改善・充実を図り、学習内容を定着させていく必要がある。

* 中学校の数値は、国語、数学の調査結果及び英語の公開問題の調査結果を基に算出しています。

◆平均正答率 [%] ・ 平均IRTスコア

※（ ）内の数値は全国（公立）比
ただし、R8英語は全国（国公立）比

年度	小 学 校 6 年 生			中 学 校 3 年 生			
	国語	算数	理科	国語	数学	理科	英語
R8	65 (+4)	58 (+2)		67 (+3)	58 (+1)		487 (-12)
R7	71 (+4)	60 (+2)	61 (+4)	57 (+3)	49 (+1)	516 (+13)	
R6	73 (+5)	65 (+2)		60 (+2)	53 (±0)		
R5	72 (+5)	65 (+2)		74 (+4)	52 (+1)		44 (-2)
R4	71 (+5)	66 (+3)	71 (+8)	73 (+4)	54 (+3)	52 (+3)	
R3	71 (+6)	72 (+2)		68 (+3)	60 (+3)		
H31 (R1)	74 (+10)	70 (+3)		78 (+5)	65 (+5)		57 (+1)

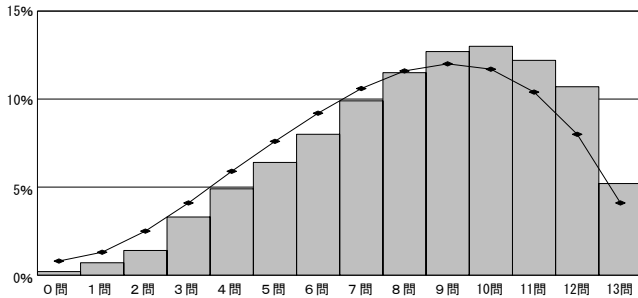
	国語A (知識)	国語B (活用)	算数A (知識)	算数B (活用)	理科	国語A (知識)	国語B (活用)	数学A (知識)	数学B (活用)	理科	
H30	77 (+6)	61 (+6)	67 (+3)	57 (+5)	66 (+6)	80 (+4)	66 (+5)	70 (+4)	51 (+4)	70 (+4)	
H19	86.1 (+4.4)	69.0 (+7.0)	88.4 (+6.3)	68.6 (+5.0)		85.4 (+3.8)	77.0 (+5.0)	77.5 (+5.6)	65.3 (+4.7)		

- * 令和7年度の中学校理科及び令和8年度の中学校英語の数値は、平均IRTスコアです。IRTスコアとは、IRT（項目反応理論）に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものです。
- * 各教科の平均正答率は、当該教科における設問ごとの正答率の平均として求めた値と同じといえます。
- * 令和2年度調査は、新型コロナウイルス感染症の影響等を考慮し、実施されませんでした。
- * 平成31年度（令和元年度）から、従来のA問題（知識）とB問題（活用）を一体的に問う調査問題で実施されています。
- * 平成31年度（令和元年度）及び令和5年度の中学校英語の数値は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」を集計したものです。
- * 全国比は、文部科学省が公表した全国平均正答率を四捨五入し、整数値として算出しています。
- * 都道府県別の平均正答率は、文部科学省が平成28年度から整数値で公表しています。

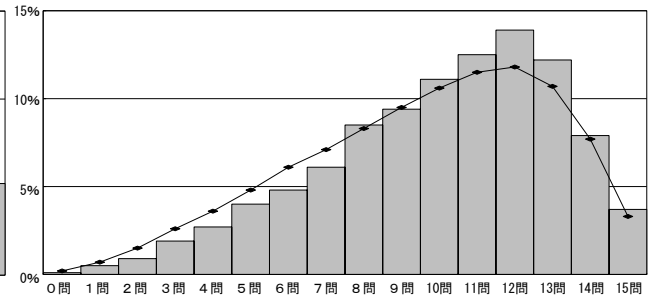
各教科の成果と課題

【国語】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

＜小学校＞



＜中学校＞



◇平均正答率 [%]

※ () 内の数値は全国比

		全体	学習指導要領の内容						問題形式		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式
			(1)	(2)	(3)	A	B	C			
小学校	秋田県	65	73.5	57.0	—	67.4	48.4	70.6	64.6	71.1	62.4
	全国	60.9	(+6.7)	(+4.7)	—	(+1.6)	(+2.7)	(+4.7)	(+2.7)	(+8.5)	(+7.5)

		全体	学習指導要領の内容						問題形式		
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等			選択式	短答式	記述式
			(1)	(2)	(3)	A	B	C			
中学校	秋田県	67	66.1	72.0	—	66.3	71.2	62.3	74.7	60.7	49.3
	全国	63.9	(+3.1)	(+1.6)	—	(+2.4)	(+3.8)	(+2.6)	(+2.0)	(+4.9)	(+3.8)

(1)言語の特徴や使い方に関する事項 (2)情報の扱い方に関する事項 (3)我が国の言語文化に関する事項 A話すこと・聞くこと B書くこと C読むこと
*小学校、中学校ともに学習指導要領の内容「知識及び技能(3)」に基づいた出題はなされていないため、「—」と表している。

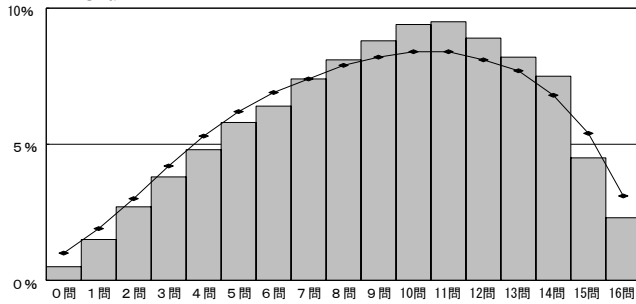
- 平均正答率は、小学校で4ポイント程度、中学校で3ポイント程度、全国平均を上回っている。
- 小学校では、「B書くこと」において2ポイント以上、「C読むこと」において4ポイント以上、中学校では、「A話すこと・聞くこと」「B書くこと」「C読むこと」の全てにおいて2ポイント以上、全国平均を上回っている。また、「記述式」の問題形式において、小学校では7ポイント以上、中学校では3ポイント以上、全国平均を上回っている。
- 小学校では、資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することや、筋道の通った文章となるように文章全体の構成や展開を考えることに課題が見られる。
- 中学校では、表現の工夫とその効果について読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点をみいだすことに課題が見られる。

●指導の改善が求められる問題

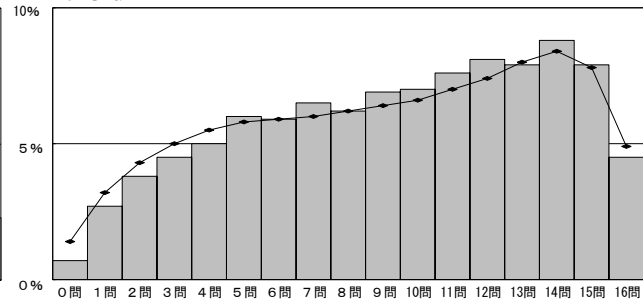
	問題番号	正答率(%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	1二(1)	57.2	60.2	休み時間の過ごし方を紹介する【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する。	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる。
	2一	56.1	57.9	花山さんの文章の工夫を説明したものとして適切なものを選択する。	筋道の通った文章となるように、文章全体の構成や展開を考えることができるかどうかをみる。
中学校	3四	50.8	45.0	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く。	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点をみいだすことができるかどうかをみる。
	4四	40.9	38.9	二つの例文を比べながら、擬態語「きっぱり」が表している具体的な様子と擬態語の効果を書く。	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えを確かなものにすることができるかどうかをみる。

【算数・数学】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（横軸は正答数、縦軸は児童生徒の人数の割合）

＜小学校＞



＜中学校＞



◇平均正答率 [%]

※（ ）内の数値は全国比

		全体	学習指導要領の領域					問題形式		
			A数と計算	B図形	C測定	C変化と関係	Dデータの活用	選択式	短答式	記述式
小学校	秋田県	58	62.6	54.5	77.8	39.7	51.6	57.4	58.9	54.2
	全国	56.4	(+1.5)	(-0.8)	(-0.3)	(-1.4)	(+3.0)	(+1.4)	(-0.8)	(+5.7)

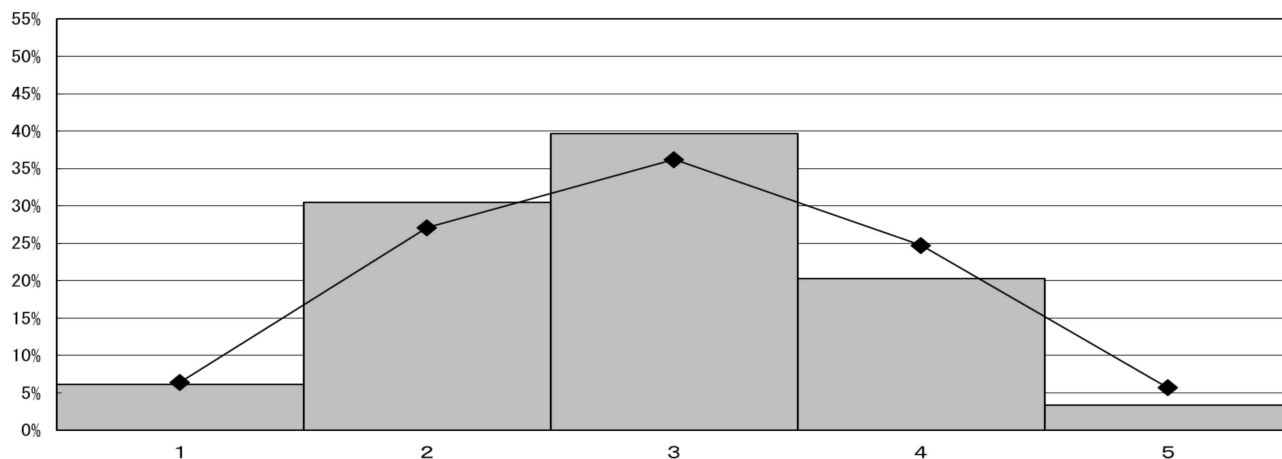
		全体	学習指導要領の領域				問題形式		
			A数と式	B図形	C関数	Dデータの活用	選択式	短答式	記述式
中学校	秋田県	58	69.5	47.9	55.7	56.9	61.0	65.1	41.2
	全国	57.0	(+1.7)	(-0.8)	(+0.9)	(+3.4)	(+1.7)	(+0.9)	(+2.1)

- 平均正答率は、小学校で2ポイント程度、中学校で1ポイント程度全国平均を上回っている。
- 「記述式」の問題形式において、小学校では6ポイント程度、中学校では2ポイント程度全国平均を上回っている。
- 小学校では、基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことや、二次元の表から、条件に合う数を読み取ることに課題が見られる。
- 中学校では、2直線が平行になるための条件を理解することや、筋道を立てて考え、証明することに課題が見られる。

●指導の改善が求められる問題

	問題番号	正答率(%)		問題の概要	出題の趣旨
		秋田県	全国		
小学校	[1] (3)	37.5	40.1	1立方センチメートルの立方体を36個使ってできた直方体の体積を書く。	体積の意味について理解しているかどうかをみる。
	[2] (4)	30.8	34.2	赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ。	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる。
	[4] (3)	18.0	17.9	二次元の表から、前半にあやとりに参加する人数と、前半はかるたに参加し、後半はあやとりに参加する人数を書く。	二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかをみる。
中学校	[3]	45.9	49.1	四角形PQRSにおいて、PS平行QRを示すための根拠となる二つの角を書く。	2直線が平行になるための条件を理解しているかどうかをみる。
	[7] (2)	34.3	33.9	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する。	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる。
	[8] (2)	43.3	46.1	図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ ならば $\angle AOB=\angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する。	筋道を立てて考え、証明することができるかどうかをみる。

【英語 4 技能】 棒グラフ：秋田県、折れ線グラフ：全国（国公立）
（横軸は I R T バンド、縦軸は生徒の人数の割合）



◇平均 I R T スコアと技能別平均正答数集計値

※（ ）内の数値は全国（国公立）比

	平均 I R T スコア	技能別平均正答数集計値		
		聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
秋田県	487	1.2/2	2.4/5	0.5/2
全 国	499	(±0)	(-0.2)	(-0.2)

※1 平均 I R T スコアとは、算出された各生徒のスコアを足し合わせて平均をとったもの

※2 I R T バンドとは、I R T スコアを 1～5 の 5 段階に区切ったもの（3 を基準とし、5 が最も高い）

※3 技能別平均正答数集計値は、公開問題 23 問のうち、生徒全員が解答した 9 問（聞くこと 2 問、読むこと・書くこと 5 問、話すこと 2 問）の正答数を基に算出

○「聞くこと」の技能において、技能別平均正答数集計値が全国平均と同程度である。

● I R T 平均スコアが、12 ポイント全国の値を下回っており、全国と比べて I R T バンド 2 の割合が高く、I R T バンド 4、5 の割合が低くなっている。

● 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、「聞くこと」、「書くこと」、「話すこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用することに課題が見られる。

●指導の改善が求められる問題

問題番号	正答率(%)		問 題 の 概 要	出 題 の 趣 旨
	秋田県	全 国		
1	58.4	60.2	注文の場面での店員と客の会話を聞き、客が注文したものを選択する。	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。
9	46.0	49.0	物語を読み、物語全体を通した登場人物の気持ちの変化を表したものを選択する。	日常的な話題について、短い文章を読み、概要を捉えることができるかどうかをみる。
10(1)	44.4	47.5	インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する。	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。
11(2)	45.1	52.7	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く。	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。
15(2) a	24.1	33.5	電話でのやり取りの中で、遊ぶ約束をしている留学生からの質問を聞き、明日しようと思っていることを伝える。	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる。

児童生徒質問調査の結果

※数値は「している」「どちらかといえば、している」等、肯定的な回答の割合（％）
 （ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「している」等と回答した割合（％）
 ※◆は文部科学省の教育振興基本計画（令和5年6月16日閣議決定）の指標において、主観的ウェルビーイングの向上に関連すると考えられる質問事項

【生活習慣】

○全体として、望ましい生活習慣が定着していると考えられる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
朝食を毎日食べていますか。	94.5 (85.6)	+ 1.2 (+ 2.5)	93.7 (82.5)	+ 2.8 (+ 4.1)
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか。	92.7 (60.5)	+ 2.0 (+ 4.6)	94.1 (61.3)	+ 1.7 (+ 5.9)

【学習習慣】

○家庭学習に主体的に取り組むなど、望ましい学習習慣が定着していると考えられる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(30分以上) 89.6	+10.6	(1時間以上) 68.1	+ 6.5
土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。	(1時間以上) 62.4	+23.4	(2時間以上) 42.7	+12.8

【豊かな人間性等】

○自己肯定感や他を思いやる心が醸成されている様子がうかがえる。
 ○学校生活に楽しさや安心感を感じている様子がうかがえる。
 ○地域や社会への関心をもち、貢献したいという気持ちがあることがうかがえる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
自分には、よいところがあると思いますか。◆	88.4 (46.1)	+ 2.8 (+ 2.5)	86.2 (42.9)	+ 2.2 (+ 1.9)
先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。◆	92.4 (55.8)	+ 1.0 (+ 2.4)	92.1 (51.1)	+ 1.2 (+ 4.4)
将来の夢や目標を持っていますか。◆	86.6 (64.3)	+ 4.8 (+ 5.7)	74.6 (44.8)	+ 7.0 (+ 7.4)
人が困っているときは、進んで助けていますか。◆	94.3 (49.6)	+ 1.6 (+ 2.3)	93.0 (45.1)	+ 2.2 (+ 4.3)
困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか。◆	72.8 (35.9)	+ 2.2 (+ 2.0)	72.6 (36.0)	+ 0.7 (+ 2.6)
自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。◆	81.7 (35.2)	+ 3.8 (+ 3.3)	84.8 (39.4)	+ 6.2 (+ 7.4)
友達関係に満足していますか。◆	92.0 (66.0)	+ 0.9 (+ 3.3)	92.4 (59.5)	+ 1.2 (+ 3.0)
普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか。◆	92.9 (55.7)	+ 0.4 (+ 1.0)	91.7 (51.0)	+ 0.7 (+ 4.9)
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか。◆	86.9 (41.7)	+ 6.8 (+ 9.8)	83.8 (34.8)	+11.5 (+12.7)

【授業等の教育活動】

- 課題解決に向けて、児童生徒が、自ら考え主体的に学習に取り組むことや、話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり広げたりすることができている。
- 多くの児童生徒が、学んだことを次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると意識をもっている。
- 国語の授業では、読解したことに基づいて自分の考えをまとめたり、話し合いによって結論を導く活動が取り入れられていることがうかがえる。
- 算数（数学）の授業では、自分の考えを説明する活動が多く取り入れられていることがうかがえる。
- 英語の授業以外で、児童生徒が英語を使う機会が少ないことがうかがえる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。	81.8 (32.2)	+ 4.2 (+ 3.9)	84.2 (32.5)	+ 5.4 (+ 5.5)
学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。	89.0 (49.3)	+ 3.3 (+ 5.8)	92.1 (51.3)	+ 5.1 (+11.7)
学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか。	84.3 (39.2)	+ 5.9 (+ 7.8)	85.4 (38.6)	+ 6.4 (+ 9.3)
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると感じますか。	86.3 (43.2)	+ 5.5 (+ 8.2)	85.6 (38.0)	+ 7.6 (+ 9.7)
前年度までに受けた国語の授業で、文章を読んで理解したことに基いて、自分の考えをまとめていましたか。 [新規]	84.3 (38.6)	+ 6.0 (+ 4.9)		
前年度までに受けた国語の授業で、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめていましたか。 [新規]			90.9 (45.8)	+ 6.1 (+ 9.9)
前年度までに受けた算数（数学）の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか。	69.8 (31.8)	+ 6.8 (+ 4.0)	73.7 (35.1)	+13.3 (+11.1)
英語の勉強は得意ですか。 [新規]	63.2 (27.1)	+ 3.4 (- 1.8)	37.5 (15.1)	- 2.0 (- 2.4)
これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか。	41.2 (21.6)	- 5.0 (- 4.2)		
これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか。			34.0 (13.7)	- 2.6 (- 2.5)

【ＩＣＴを活用した学習状況】

- ＩＣＴ機器の活用頻度（ほぼ毎日）は、小学校で全国平均をわずかに下回っているが、ＩＣＴ機器の活用では、児童生徒が自信をもっていることがうかがえる。

質 問 事 項	小学校 6 年生		中学校 3 年生	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
前年度までに受けた授業で、ＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、どの程度使用しましたか。	(ほぼ毎日(複数の授業)) 19.3	- 1.2	(ほぼ毎日(複数の授業)) 34.1	+ 4.8
あなたは自分がＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器で文章を作成する（文字、コメントを書くなど）ことができますか。	82.4 (51.8)	+ 3.3 (+ 2.3)	88.4 (56.1)	+ 3.6 (+ 3.5)
あなたは自分がＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を使って情報を整理する（図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる）ことができますか。	73.0 (35.5)	+ 3.5 (+ 2.7)	72.2 (33.0)	+ 2.8 (+ 1.0)

学校質問調査の結果

※数値は「よく行った」「どちらかといえば、行った」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」等と回答した割合（％）

【授業等の教育活動】

- 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて学習過程を工夫し、問題解決のプロセスを重視した探究型授業の充実を図っていることがうかがえる。
- 家庭学習において、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めることについて、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した学校の割合が全国平均を大きく上回っており、自立した学習習慣を身に付ける指導が行われていることがうかがえる。
- 学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫していると回答した学校の割合が全国平均を下回っている。

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
児童生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。	93.9 (21.3)	+ 5.8 (+ 0.9)	87.2 (22.5)	± 0.0 (+ 3.4)
前年度までに、学習指導において、児童生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか。	90.2 (25.0)	－ 1.0 (－ 3.2)	74.5 (15.7)	－13.0 (－ 7.7)
前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。	89.1 (16.5)	+ 1.0 (－ 4.9)	85.3 (16.7)	－ 0.8 (－ 3.0)
前年度までに、関連する既習事項を振り返り、知識を総合的に関連付ける学習活動を行いましたか。〔新規〕	90.9 (22.0)	－ 0.8 (－ 5.0)	93.1 (18.6)	+ 2.5 (－ 4.7)
前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか。	87.2 (12.2)	+ 0.2 (－ 6.5)	76.5 (5.9)	－ 3.4 (－ 9.1)
国語の授業において、前年度までに、学習状況に即して児童生徒のよい点や進歩の状況を積極的に伝えることを行いましたか。	97.0 (29.3)	+ 0.6 (－ 6.8)	97.1 (45.1)	+ 0.3 (+ 4.9)
国語の授業において、前年度までに、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるような指導を行いましたか。〔新規〕	97.6 (30.5)	+ 0.5 (－ 5.1)		
国語の授業において、前年度までに、互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるような指導を行いましたか。〔新規〕			97.0 (38.2)	+ 3.1 (－ 0.2)
算数(数学)の授業において、前年度までに、日常生活や社会における事象との関連を図った授業を行いましたか。	93.3 (27.4)	+ 1.5 (－ 0.5)	90.1 (22.5)	+ 0.9 (－ 1.8)
算数(数学)の授業において、前年度までに、問題の答えを求めさせるだけではなく、どのように考え、その答えになったのかなどについて、根拠を明確にして児童生徒に筋道を立てて説明させるような授業を行いましたか。〔新規〕	95.1 (52.4)	－ 0.7 (+ 8.5)	96.0 (57.8)	+ 0.3 (+11.1)
学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか。	77.4 (14.0)	+ 2.2 (－ 4.3)		
英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動を行いましたか。			63.8 (16.7)	－12.9 (－4.0)
前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか。	98.8 (67.1)	+ 2.2 (+17.7)	97.0 (48.0)	+ 5.8 (+14.6)
前年度までに、家庭学習について、児童生徒が自分で学ぶ内容や学び方を決めるなど、工夫して取り組めるような活動を行いましたか。	98.2 (54.3)	+ 7.1 (+15.3)	98.0 (48.0)	+13.0 (+21.2)

【ＩＣＴを活用した学習状況】

- 小学校では、教員がＩＣＴ機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を設けていると回答した学校の割合が全国平均を上回っている。
- 中学校では、生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面や生徒同士がやりとりする場面でＩＣＴ機器を使用していると回答した学校の割合が全国平均を上回っている。
- 児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどの端末を、日常的に家庭に持ち帰って活用させる取組をしていると回答した学校の割合が全国平均を下回っている。

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
児童生徒が学びを深めるための指導改善に向けた取組として、教員がコンピュータなどのＩＣＴ機器の効果的な使い方を学ぶために必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか。 [R7より一部変更]	94.5 (29.3) 〈R7 95.3〉	+ 1.2 (- 7.9) —	85.3 (23.5) 〈R7 91.3〉	- 4.1 (- 8.3) —
前年度までに、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器を、授業でどの程度活用しましたか。	(ほぼ毎日(複数の授業)) 51.8 〈R7 55.4〉	— 5.4 —	(ほぼ毎日(複数の授業)) 50.0 〈R7 67.3〉	— 9.8 —
児童生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。	(ほぼ毎日) 18.9 〈R7 19.0〉	— 2.5 —	(ほぼ毎日) 23.5 〈R7 26.0〉	+ 3.7 —
児童生徒同士がやりとりする場面では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。	(ほぼ毎日) 13.4 〈R7 15.5〉	— 4.8 —	(ほぼ毎日) 17.6 〈R7 23.1〉	+ 2.2 —
児童生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどのＩＣＴ機器をどの程度使用させていますか。	(ほぼ毎日) 11.0 〈R7 11.3〉	— 8.5 —	(ほぼ毎日) 10.8 〈R7 11.5〉	— 5.7 —
児童生徒一人一人に配備されたＰＣ・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか。	(毎日～時々) 73.8 〈R7 80.4〉	—15.1 —	(毎日～時々) 64.7 〈R7 75.0〉	—23.6 —

【家庭や地域との関わり】

- 職場見学（職場体験活動）を行っているという回答した学校の割合が全国平均を上回っており、児童生徒が自分の将来の姿を意識できるようにしている。
- 家庭や地域との連携を緊密にして児童生徒を育てることがうかがえる。

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
(小学校) 職場見学を行っていますか。 (中学校) 前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか。	(行っている) 51.8	+ 9.8	(1日以上) 92.2	+11.0
コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解が深まりましたか。	97.0 (40.9)	+ 7.9 (+ 4.4)	90.2 (32.4)	+ 5.8 (+ 4.4)

全国学力・学習状況調査結果の活用

◆概 要

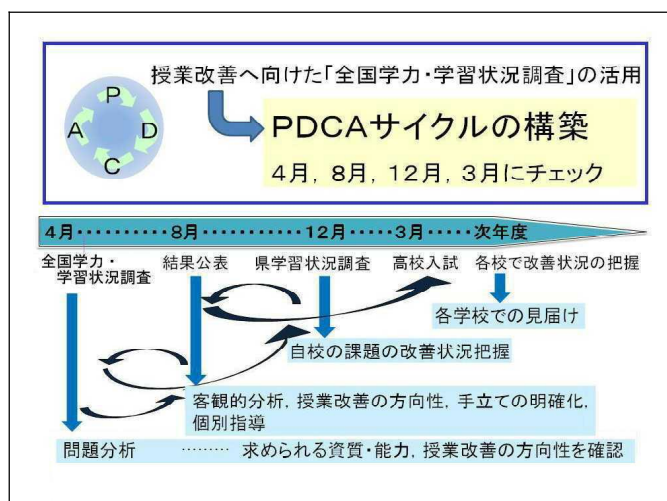
- ほとんどの学校が、全国学力・学習状況調査の自校の結果を全職員で共有するなどして、学校全体で教育活動を改善するために活用している。
- 保護者や地域の人たちに対して自校の調査結果を公表や説明することについて、肯定的な回答をした中学校の割合が全国平均を下回っている。

◎学校質問調査結果より

※数値は「よく行った」「行った」等、肯定的な回答の割合（％）
（ ）内の数値は、肯定的な回答のうち「よく行った」と回答した割合（％）

質 問 事 項	小 学 校		中 学 校	
	秋田県	全国比	秋田県	全国比
令和7年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか。	99.4 (37.2)	+ 2.7 (- 2.1)	93.1 (23.5)	- 0.5 (- 6.3)
令和7年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか（学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む）。	91.5 (18.3)	+ 1.9 (-11.0)	72.5 (13.7)	-11.7 (-12.0)

○県教育委員会は、調査を有効に活用し、全国学力・学習状況調査、県学習状況調査及び高校入試を一体として捉えた検証改善サイクルを機能させることで、確かな学力を身に付けた児童生徒の育成に向けた各学校の取組を支援しています。



☆学力向上関連事業等

◆これまでの主な事業等

- 少人数学習推進事業〔少人数学級、ティーム・ティーチング等による少人数授業〕
(H13～)
- 学習状況調査事業 (H14～)
- 教育専門監の配置 (H17～、義務教育課はH18～)
- 算数・数学学力向上推進事業 (H17～22)
- 学力向上推進事業 (H23～)
- “「問い」を発する子ども”の育成のための指針の作成 (H24)
- 秋田わか杉 七つの「はぐくみ」 (H27～)
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善充実事業 (H30、R1)
- ICT活用リーダー研修 (H5～7)

◆今年度の事業等

- 少人数学習推進事業
 - ・小学校第1学年から中学校第3学年までの全ての学年で少人数学習を実施
- 学力向上推進事業
 - (1) 学習状況調査事業
 - (2) あきたの教育力充実事業
 - ①学校訪問指導
 - ②学力向上支援Web・学習ポータルサイト
 - ③理数才能育成プロジェクト
 - ④検証改善委員会
 - ⑤オンライン・ミーティング
 - ⑥情報活用能力に関する指導力向上研修
 - (3) ICTを活用した授業力向上事業
- キャリア教育実践研究事業
 - ・キャリア教育実践研究協議会
- AKITAグローバル人材育成事業
 - (1) 発信力強化プロジェクト事業
 - (2) グローバルコミュニケーションプロジェクト事業
 - (3) 指導力向上プロジェクト事業

資料 1

本県における全国学力・学習状況調査への参加概況(教科に関する調査)

○小学校

- ・参加校数 165校（内訳：市町村立161、義務教育学校前期課程3、秋田大学教育文化学部附属1）

※すべての学校が令和8年4月23日に調査を実施

- ・参加児童数（令和8年4月23日に調査を実施した人数）

	公 立	秋大附属
国 語	5, 510 人	(92 人)
算 数	5, 508 人	(92 人)

※秋田大学教育文化学部附属小学校については、実施予定人数

○中学校

- ・参加校数 103校（内訳：県立3、市町村立95、義務教育学校後期課程3、特別支援学校1、秋田大学教育文化学部附属1）

※国語、数学はすべての学校が令和8年4月23日に調査を実施

※英語の「読むこと」「書くこと」「聞くこと」は、すべての学校が令和8年4月20日から4月23日までの間に調査を実施。

「話すこと」は、すべての学校が令和8年4月24日から5月29日までの間に調査を実施。

- ・参加生徒数（国語、数学は令和8年4月23日に調査を実施した人数、英語はC B Tの各実施日に調査を実施した人数の総数）

	公 立	秋大附属
国 語	5, 776 人	(127 人)
数 学	5, 771 人	(127 人)
英 語	5, 756 人	(127 人)

※公立の学校のうち、特別支援学校の生徒は1人

※秋田大学教育文化学部附属中学校については、実施予定人数

文部科学省から県教育委員会に提供されている本資料における結果（平均正答率等）は、秋田大学教育文化学部附属小・中学校を除く、公立学校分である。

資料 2



秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

一 早寝早起き朝ごはん
生活リズムは全ての基本

二 元気なあいさつ 明るい返事
規則約束守るわか杉

三 読んで話して書いて高める
「問い」を発する思考力

四 問題解決 子どもが主体
授業の続きは家庭で学習

五 職場体験 インターンシップ
地域で育む子どものキャリア

六 学校や地域の話題で語り合い
将来の夢家族でえがく

七 ふるさとを支える自覚と志
みんなのでつくる未来の秋田

※本県の未来を担う子どもたちを「わか杉」と呼んでいます。

“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”の作成の経緯、基本的な考え方

県教育委員会では、平成27年度に“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”を作成いたしました。

全国学力・学習状況調査（文部科学省）の結果から、本県の学力やその基盤となる様々な要因については、全国からはもちろんのこと、海外からも注目される場所となりました。

「第4期あきたの教育振興に関する基本計画」を策定し、「教育立県あきた」の実現を目指す中、児童生徒質問調査等から見える児童生徒を主体とした授業づくり、家庭学習の習慣、家庭や地域の教育力等、本県の財産とも言えるオール秋田でつくるすばらしい教育環境を“秋田わか杉 七つの「はぐくみ」”として発信し、「ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり」を目指したいと考えております。